

2. 火山の概況 (平成 15 年 3 月 20 日 ~ 平成 15 年 3 月 26 日)

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガス放出が続いている。阿蘇山で多発していた孤立型微動は減少傾向にある。霧島山では微動があった。

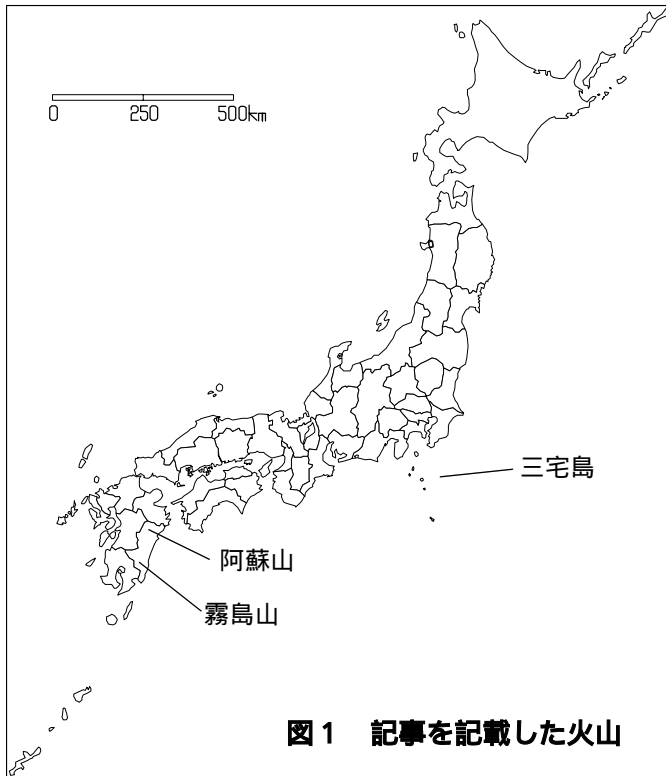


表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	三宅島	八丈島	阿蘇山	霧島山	桜島	口永良部島	諏訪之瀬島
13	3/20- 3/26							
12	3/13- 3/19							
11	3/ 6- 3/12							
10	2/27- 3/ 5							

注1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注2 本文の火山名の後ろの[]内の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ等を示す。

三宅島 [噴煙・火山ガス]

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 500m (20、22、23 日)であった(前期間 800 m)。

震度 1 以上を観測した火山性地震、振幅のやや大きな低周波地震、微動は発生しておらず、火山活動に特に変化はなかった。

26 日に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測*では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から南へ流れていた。山体の地形や火口の状況等に大きな変化はなかった。赤外熱映像装置による観測では、火口内の最高温度は 250 であった(前回(3月4日)255)。

また、同時に気象庁が行った火山ガス観測*では、二酸化硫黄の放出量は日量約 6,300~7,300 トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図2)。

GPS 観測では、収縮の傾向にあった三宅島の地殻変動は収縮率が小さくなり、静穏期にもみられるわずかな膨張に転じている。

* 警視庁の協力による

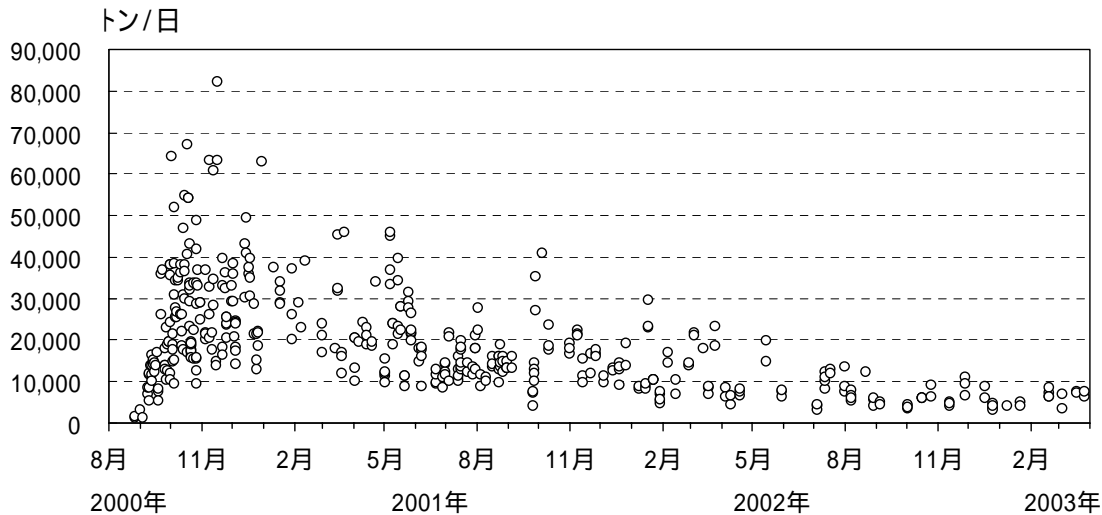


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量 (2000年8月 ~ 2003年3月)

阿蘇山 [微動・熱]

孤立型微動の発生回数は、1日当たり31~67回、合計は332回(前期間518回)と減少傾向にある。地震回数は少ない状態が続き、1日当たり1~9回で、合計は30回であった(前期間24回)。白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上300m(22日)であった(前期間400m)。19日に実施した中岳第一火口の観測では、火口内は依然全面湯だまり状態、湯だまりの色は緑色で、最高温度は53(前回(19日)53)と特に異常な変化はなかった。

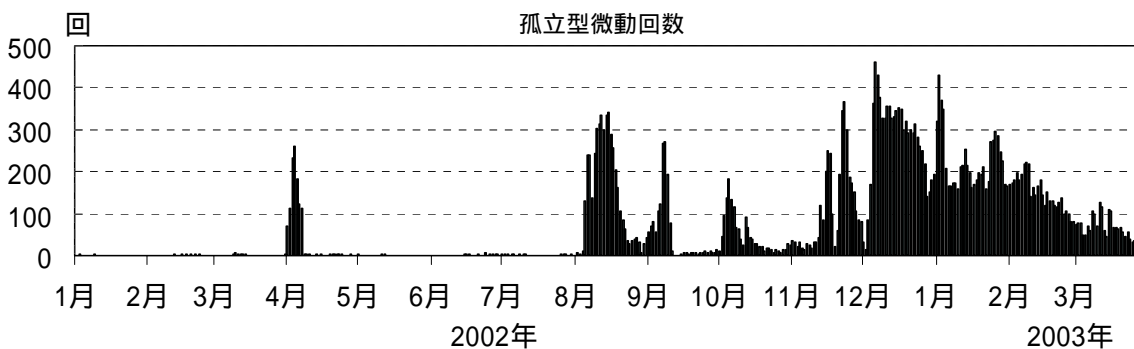


図3 阿蘇山 孤立型微動日別回数 (2002年1月1日 ~ 2003年3月26日)

霧島山 [微動・地震]

25日23時44分頃、御鉢付近が震源とみられる継続時間13分の微動が発生した(10分を超える微動の発生は昨年10月19日以来)(図4)。

また、微動発生直後から、御鉢付近を震源とする体に感じない微小な地震が一時的にやや多くなった。

なお、これらの活動の前後で、噴煙活動等に異常はみられなかった。

微動継続時間の日合計(分)

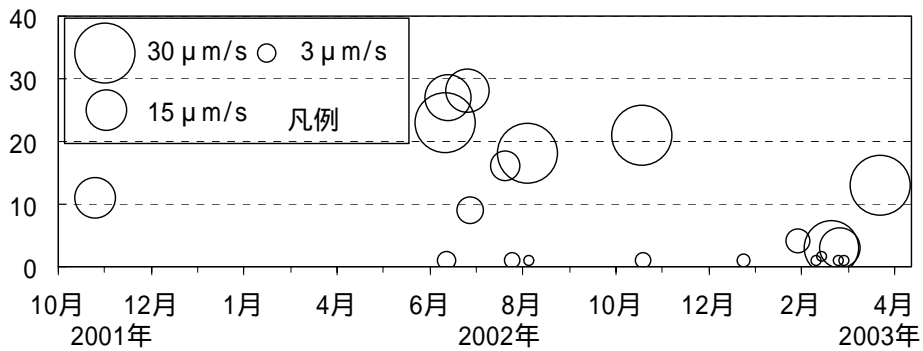


図4 霧島山 御鉢付近を震源とする微動 継続時間(日合計)と最大振幅(2002年1月1日～2003年3月26日) 東京大学地震研究所高千穂西観測点による。

表2 火山情報発表状況

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第153号	20日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第166号	26日 16:30	
霧島山	火山観測情報第1号	26日 11:00	微動の発生、地震散発、噴気活動・地殻変動に変化なし